

79 誌上発表 北宋以前の漢籍に見える『内経』経文

橋本 典子

日本鍼灸研究会

後に『黄帝内経』と総称される『素問』『靈樞』の経文は、北宋以前の医学書の注解文の中だけではなく、医学とは無関係の史書注や類書などに散見している。ただそれらは医経校勘の資料として部分的に用いられる事はあっても、それらの引用が、どの程度の規模で、どのように引用されている事が、総括的に論じられた事は無いように思われる。よって、北宋以前の諸書に見える『素問』『靈樞』の経文のうち、引用書名が明示されている引用のみを対象として調査し、その概要を報告する。

今回調査対象とした北宋以前の漢籍は、①『後漢書』（南朝宋・范曄〔398-446〕撰、李賢注）、②『文選』（梁・昭明太子蕭統〔501-531〕撰、唐・李善注）、③『五行大義』（隋・蕭吉撰）、④『芸文類聚』（唐・欧陽詢〔557-641〕等撰、武徳7年〔624〕成立）、⑤『北堂書鈔』（唐・虞世南〔558-638〕等撰、大業年間〔605-617〕成立）、⑥『初学記』（唐・徐堅〔659-729〕等撰、開元15年〔727〕成立）、⑦『史記正義』（唐・張守節注、開元24年〔736〕成立）、⑧『太平広記』（北宋・李昉〔925-996〕等奉勅撰、太平興国3年〔978〕成立）、⑨『太平御覧』（北宋・李昉等奉勅撰、雍熙元年〔984〕成立）、⑩『文苑英華』（北宋・李昉等奉勅撰、雍熙4年〔987〕成立）、⑪『冊府元龜』（北宋・王欽若〔962-1025〕等奉勅撰、大中祥符6年〔1013〕成立）の11書である。また検索対象とした書名は「素問」「鍼経」「九卷」「靈樞」であるが、関連書名として、「太素」についても調査した。

調査の結果、次のような事が判明した。上記11書に見られる『素問』『靈樞』の引用は計算65条である。うち「素問」あるいは「黄帝素問」を引くものは62条で、その余の3条は『太平御覧』に引かれた「黄帝針経」「黄帝針灸経」各1条と『史記』張守節正義に見える「針法」1条であるが、「黄帝針灸経」については『素問』『靈樞』に未見、「針法」として引かれた条文は現行『素問』に一致している。『素問』の引用は『後漢書』李賢注3条、『文選』李善注12条、『五行大義』2条、『芸文類聚』4条、『北堂書鈔』細字注4条、『初学記』細字注2条、『史記』張守節正義19条（「針法」を算入）、『太平御覧』15条、『冊府元龜』細字注1条である。『太平広記』『冊府元龜』『文苑英華』の三書には一切引用は見られない。ただ『文苑英華』と『冊府元龜』には『素問』の書名は各2回見える。ただし『冊府元龜』本文に二度見える書名「鍼経」は、いずれも後漢の医家・涪翁の伝記中に見える「針経診脈法」に過ぎない。『九卷』『靈樞』『太素』の引用は上記諸書には一切見られない。北宋までの諸書において、医書における若干の引用と史志への著録以外に『靈樞』と『太素』が全く引かれていない事は、これらの医書の伝承状況、あるいはこれらの医書に対する唐宋人の姿勢を考える上で興味深い事である。

次に引用経文の内容であるが、『素問』の引用62条のうち計22条（「黄帝針灸経」を含む）が現行の『素問』に全く見ることができない。特に『史記』張守節正義所引の19条のうち17条が『素問』からの引用と明示されているにも関わらず、現行本に未見となっている。また引用されている40条のうち、14条が陰陽応象大論からのもので、しかも経文の一部「積陽为天、積陰为地」「故清陽为天、濁陰为地。地气上为云、天气下为雨。雨出地气、云出天气」は何度も引かれている。これは引用している書物の性格によるところが大きいのであろうが、冬至の知識人一般の『素問』に対する関心の所在が感じられる。

なお北宋において前記以外にも、『雲笈七籤』や『類説』『六書故』『経外雜抄』などにも『素問』『靈樞』の引用が散見するが、その検討は他日に課題とする。